

三重県

前田建設・水谷建設・磯部建設工業JV

鳥羽河内ダム 定礎

式辞

三重県知事

一見 勝之



住民の命をずっと守る

2年前、鳥羽河内ダムの起工式がこの場で行われたのを昨日のように思い出します。施工者の皆さまに大変ご尽力いただき、本日の定礎式にこぎ着けたことを心よりお礼申し上げます。

このダムは調査に着手したのが51年前の1975(昭和50)年、事業化されたのが29年前の1997(平成9)年です。皆さまの命を守るためにダムはなくてはならないものであり、特に地元の地権者の皆さま、先祖代々の土地をご提供いただいた方、工事関係でご迷惑をおかけしている方、自治体の皆さまに心からのおわびと感謝を申し上げます。

こちらでは集中豪雨で大きな被害が発生し、残念ながら命をなくされた方もおられ、心から哀悼の意を表します。当時、今で言うところの線状降水帯に襲われ、そうした災難から守るダムになります。

このダムは県内初の流水型ダムとなり、土砂や魚類の移動など、自然に近い物質循環が維持されます。まだ時間はかかりますが、皆さまの力を頂戴してダムが完成し、住民の命をずっと守っていくことを心から祈念します。

(式典式辞から抜粋)

祝辞

国土交通省
中部地方整備局長

森本 輝



技術の粋を尽くし環境に配慮

気候変動に伴い、自然災害が激甚化、頻発化の中で、ここ加茂川でも鳥羽河内ダムを整備していかなければ、そのリスクが高まり、危険度が増していきます。

国土交通省では流域治水の考えに基づき、いろいろな施策を組み合わせることで水害に立ち向かっていこうとしています。その効果を上げる根幹がダムであり、こうした施設整備を進めるだけでなく、流域の住民の方々によるソフト対策を合わせて行っていきます。

平時に水をためない流水型ダムでは一定の実績はありますが技術的困難もあり、県の皆さまもいろいろ試験をされて(鳥羽河内ダムの)形を決められたということです。下流の被害軽減のために技術の粋を尽くしながら、しっかりと環境にも配慮した新しいダムの完成を待ちわびております。

流域の方々の協力を得て、施工業者の方々には安全にしっかりと施工し、一日も早い完成を目指していただきます。

(式典式辞から抜粋)

祝辞

鳥羽市長

小竹 篤



子どもたちの思いが治水の礎に

地元にとっては50年来の念願の事業であり、本日の定礎式を迎えて喜ばせたいと思っております。

昨今の気候変動は非常に厳しいものがあり、また河川の水が流出してもおかしくないと思配しているところです。加茂川では1982(昭和57)年と88(同63)年に大きな氾濫被害があり、当時、非常にショックを受けたのを覚えています。この間、河川を改修しながら安心を保っていましたが、あらためてダムが整備されることに市民も大変喜んでおります。

(定礎式の会場である)加茂中学校は先日閉校式を行い、閉校することになりましたが、(最後の)卒業生14人が礎石に1文字ずつ書き記し、地元の過去に思いを込めました。ここで育った子どもたちの思いがダムの中に埋められ、100年、200年と続くであろう治水の礎になることは、地元にとって大きな誇りだと思います。

(式典式辞から抜粋)

施工者代表

前田建設工業株式会社
代表取締役社長

前田 操治



協力会社と連携し期待に応える

当JVでは2023(令和5)年10月に現場に乗り込みました。昨年末に本体工事のコンクリート打設に着手し、本日無事に定礎式を迎えることができましたのも三重県、国の関係官庁の皆さま、そして地域の皆さまのご指導、ご協力、ご理解のたまものと心より感謝申し上げます。

この節目を迎え、改めて流域治水による安全確保という事業目的の重要性と、地域の皆さまの長きにわたる思い、期待を感じて身が引き締まる思いです。

工事はまだまだ道半ばで、来年春のコンクリートの打設完了を目指しております。2年後の工事完了、引き渡しまでの期間中、ご迷惑をおかけすることもあろうかと思っておりますが、施工するJVパートナーと多くの協力会社の方々との連携し、皆さまの期待に応えてまいります。

工期内に品質の良いものを無事故・無災害でお引き渡しすることを、この場を借りてお願い申し上げます。

(式典あいさつから抜粋)

流域の暮らしと環境を守る県内初の流水型ダム

これまでに幾度となく洪水を繰り返し、流域に大きな被害を及ぼしてきた三重県南東部の加茂川水系、県が同水系の治水計画の一環で整備を進めている「鳥羽河内ダム」の定礎式が3月21日、鳥羽市内の加茂中学校で開かれた。式典には県や市、建設工業JVが担当している。

元住民のほか、国会議員や国土交通省、施工関係者が多数出席。ダム本体工事での大きな節目の定礎を祝うとともに、工事の安全と早期完成、ダムの安全と永久堅固を祈願した。施工は前田建設・水谷建設・磯部建設工業JVが担当している。



ダム式万歳三唱とくす玉開披

定礎式

2026. 3. 21



鎮定(ちんてい)の儀



斎饗(いみごて)の儀



斎脩(いみづち)の儀



コンクリートバケットによる埋納



式典で演奏された九鬼水軍太鼓



現場全景



完成イメージ

事業概要	
■ 事業場所	三重県鳥羽市河内町
■ 事業主体	三重県(流水型)
■ 型式	重力式コンクリートダム
■ 堤頂長	176.5m
■ 堤高	39m
■ 集水面積	約11.6平方km
■ 総貯水容量	約29.6万立方m
■ 完成予定	2028年度

地域との対話を大切に事業推進

三重県志摩建設事務所長 長井 貴裕



工事概要・経過報告

鳥羽河内ダム建設事業は1997(平成9)年に新規ダム建設事業として採択され、事業着手しました。その後、皆さまから大切な用地を提供いただき、現場では資材搬入路となる工事用道路から整備を進め、事業採択から27年を経て2023(令和5)年度にダム本体建設工事に着手しました。

現在、ダム本体建設工事のほか、各設備工事やダム上流部の市道付け替え工事など、複数の工事を同時に進めています。ダム本体建設工事では24年12月から開始した掘削がおおむね完了し、現地に設置した日本最大級の25x27mの6立方mのコンクリートバケットを、こちらも日本最大級の25x27mのコンクリートバケットを使用し、25年12月から本格的に堤体コンクリートの打設を始めています。

工事期間中は地域の皆さまに大変ご不便をおかけするところもあるかと存じますが、地域の皆さまとの対話を大切にしながら、27年度に予定している試験湛水の開始、そして28年度の事業完成という目標に向け、これからも安全を最優先に工事を進めてまいります。

より良い品質で安全に施工



鳥羽河内ダム
作業所長
中島 秀樹

このほど定礎式を迎えることができましたが、まだこぼれ折り返し地点にすぎません。引き続きより良い品質のダムの完成に向け、安全作業で事故なく進めていきたいと思います。

施工に当たり、地元の方にはいろいろとバックアップしていただいております。今後も協力をいただきたが、皆さまにご迷惑をおかけしないよう細心の注意を払ってまいります。

鳥羽河内川治水ダム建設事業 鳥羽河内ダム本体建設工事 前田・水谷・磯部特定建設工事共同企業体

前田建設工業株式会社

代表取締役社長 前田 操治

東京都千代田区富士見 2-10-2 電話 03(5276)5151

水谷建設株式会社

代表取締役社長 水谷 秀雄

三重県桑名市大字新塚新田 328 電話 0594(21)8111

磯部建設工業株式会社

代表取締役 平石 隆之

三重県志摩市磯部町迫間 72 電話 0599(55)0066